

## 令和5年度第1回加西市立図書館協議会議事録

日 時 令和5年9月20日（水） 15:00～16:30

場 所 アスティアかさい3階 集会室

出席者 委員10名：笹倉剛、市浦央子、吉田香代子、小西孝子、高瀬由美、衣笠朋子、  
金澤泰子、吉村靖、柳良典、鷺尾小百合

教委・図書館2名：菅野教育長、伊藤館長、民輪館長補佐

欠席者 なし

1 開会 民輪館長補佐が開会を伝えた。（15:00）

2 あいさつ

(1) 教育長あいさつ

図書館は昔と違い、ICTやデジタル化という非常に大きな波が押し寄せていて、加西市立図書館も電子図書館を始めとして、非常に先進的な取り組みを進めているところである。

今日は、委員の皆様からご意見をいただき、図書館をさらに発展させていきたいと考えている。どうか本日の会議が実りあるものになることを期待している。

3 委員紹介

委員、職員が自己紹介を行った。

4 会長・副会長選出

互選により会長に笹倉委員、副会長に市浦委員を選出する。

(会長あいさつ)

2年前から書きかけた本が、昨日やっと書き上がり、ちょうど21冊目になる。人生において50冊を書くつもりだ。来月で私は73歳になる。図書館法が成立した年、1950年生まれで、図書館と非常に深い縁があると思っている。

今年は特に猛暑が続いている。皆さんもご存知の2030年問題について、これから図書館も本を用意されると思う。江戸時代からの気候周期の変化で、東京が北海道の気候になると言われ、このあたりでも雪が1メートル降ると予想されている。図書館はそういうすべての情報を先取りして資料を提供していくべきである。

私が図書館に勤めていた頃は、新聞を読み、レファレンスの予想を立てて、先に本の用意をしていた。図書館は、児童サービスから、福祉、高齢者、障害者支援サービスなど様々なサービスがある。すべてのサービスについて、ひとつひとつ確認をするべきである。

今の図書館は、本を借りて楽しむための図書館から課題解決型の図書館へと進化している。地域をどう活性化させるか、学校、少子化、高齢者、外国人の方への支援も含めて、これら全てに対応して考えていかなければならない。

そして、図書館の貸出サービスについて、人口規模で全国1位の市がある。しかし、借りられる本の内容を見れば本当にそれがいいのかと思う。特に漫画の貸出が多い状況については、貸出数の数値は増えるが、図書館が住民の教育力を育てるということを考えると疑問に思う。

例えば、学校図書館に行けば、その学校の教育力がわかる。市の図書館の蔵書を見れば、市は市民に対して何を期待しているかわかる。内容が一番大事だと思う。決して漫画が駄目だというのではなく、「読書はパワー」というアメリカのベストセラーの本に書いてあるが、漫画は漫画以外の読書への橋渡しとなり、本格的な読書に進むことにつながるわけである。漫画で有名な滋賀県の図書館もある。段階的に本当に質の高い、より多くの深い本に進むことが重要だ。

子どもたちに表紙のアニメ化された本など手に取りやすい本を提供することも大事だが、子どもに読んで欲しい本、例えば冒険もの、ハリーポッターなどを読み、次はもう少し心理的に深いゲド戦記などを薦めるなど、図書館が学校も含めて本の段階的な提供について指導すると非常に助けになると思う。

私は3年前まで20年間、芦屋市の図書館協議会の委員長を務めていた。市民を代表してこられている方が積極的に正直に意見を出され、その意見を芦屋市は取り入れて改善をしていた。芦屋市では特に児童サービスに力を入れていた。

この加西市立図書館も私がずっとお願いしていた学校とのシステム連携や、MARCの統一ができ、兵庫県では先進市に入ると思う。そういう良いものを取り入れて、市民にとってより利用しやすい図書館にするために今日は皆さんに忌憚ない意見を頂戴したいと思う。

(副会長あいさつ)

昨年度までの会議は、女性が多く参加し女性の意見をたくさん聞いてもらえたと思う。私は不慣れな場所に来ると、とても緊張するが、この会議に4年間参加していて、自分の意見をとても話しやすい会議であると思っている。今年度から、教育長を始め、新しいメンバーの加入によりさらに新しい風が吹くと思う。市民の声が届きやすい会議になることを願う。

## 5 報告・議事事項

民輪館長補佐から、以後の議事進行を笹倉会長に依頼した。

- (1) 令和4年度図書館事業実績報告について (民輪館長補佐説明)
- (2) 令和5年度図書館事業計画について (伊藤館長説明)
- (3) スマート図書館サービスの推進について (伊藤館長説明)

委員：情報提供をしようと思う。来年度から小学校の教科書が新しくなるため、最近、学校図書館の担当者会を開いた。今日、新しい教科書を持ってきているが、図書館関連のページがとても充実している。例えば、1年生では「としょかんへいこう」、2年生では「図書館たんけん」、3年生では「図書館たんていだん」、4年生で「図書館の達人になろう」、5年生は「図書館を使いこなそう」、6年生で「公共図書館を利用活用しよう」という内容になっている。関連するページが、去年までの2ページから3ページに増えているだけでなく、内容も変わっ

ているので、それに関連する図書が変わることになる。

今の市長が教育長の時に学校図書の費用を充実してくれたが、今年度の予算もほぼ使っているのので、市の図書館で、新しい教科書の関連図書を購入してもらえたらありがたい。

委員：光村図書出版の教科書は、図書館について詳細に説明をしている。分類は1年生から6年生までページを割いて、しっかりと説明をしてある。学校図書館だけでなく、公共図書館の利用を考えて教科書に記載されている。図書館としても、それらの情報を把握しておく必要がある。

委員：スマート図書館として図書館システムが統一されて、市内全ての小中学校が同じシステムを利用している。図書館の職員との連携もしやすくなっている。本の登録について、市の図書館で登録されている本は、新刊本等の登録作業が楽になったと担当者は喜んでいる。逆に、登録されていない本については、少し登録が煩雑な手続きになると戸惑っている担当者もいる。しかし、それより何よりも、加西市には学校図書館に専任の司書教諭がいない。

委員：司書教諭ではなく学校司書の方がいない。

委員：司書教諭はいるが学校司書がいないため、図書担当は担任や専科を持ちながら、自分の業務や学級運営をこなしながら、時間を捻出して本の登録作業などを行っている。教育長への要望として、このシステム統一を機会に、学校図書館に学校司書の配置をしていただきたい。学校司書と連携することで学校図書館の充実、教師の業務改善が図れると考える。

教育長：そういう現状だということがわかった。

委員：岡山市では既に30、40年前から学校司書を配置している。労働組合の働きかけがあった。それから千葉県の子川市などもそうである。特に石川県では市職員が学校司書として専任で配置されている。私も石川県の先生と一緒に本を書いたのだが、学校司書が配置されている学校では授業のレベルが高く優れた授業研究が行われている。例えば、授業する内容や調べ学習用の資料を1週間前に学校司書に頼んだら、すべて用意しブックトラックに置いて準備してくれる。そのように授業のサポートを行うからレベルが高い授業になる。多可町も、要望し続けてやっと2校に学校司書を配置するようになった。

委員：九会小学校のように図書ボランティアが学校図書館に入ってくると助かるのだが。

委員：それは逆である。図書ボランティアが先に配置され、全ての業務をしてもらうのには負担がかかりすぎる。まず、学校司書を配置して、そこに図書ボランティアが入ってサポートするというのが順番である。

教育長：要望としては、学校司書は各校1人ずつの配置が理想だと考えて良いか。

委員：各校1人ずつが理想だが、それがすぐには無理であるなら、高砂市のように4校で1人という方法もある。

教育長：学校図書館業務について、司書が兼務をして進められるものなのか。

委員：例えば、週に1日、日を決めて来てもらい、市の図書館の司書の方と連携して、新しい本を登録し、図書館の環境整備をしてもらいたい。まずはこのような方法で進めてもらえたらと思う。システムは統一されているから進めやすいと思う。

教育長：なるほど、そういう方法から始めてもよいということだ。予算については来年度予算として検討することになる。

委員：学校司書は国会で2、3年前に法制化されたが、学校司書の配置は必須ではなく努力事項になった。司書教諭は、12学級以上の学校で配置しなければならないが、学校司書の配置は努力事項である。そのため、市の財政状況や教育方針によって配置の在り方が異なる。

教育長：司書の資格を持っている方は、学校の先生とは限らないのか。大体は学校の先生なのか。

事務局：学校司書と図書館司書はまた別のものになる。

委員：司書教諭の講習内容は5科目しかないが、図書館司書は13、14科目の講習を受けて専門知識を習得するため、プロフェッショナルといえる。レベルの差が大きい。

教育長：勉強不足で申し訳ないのだが、図書館司書の方は、大体は求人募集をすればすぐに見つけられるものなのか。

委員：私は近畿大学で関連の仕事をしているが、加西市の方も司書講座を受けている。講座を受けている方は多いと思う。

事務局：これまで学校に学校司書の配置の計画があったかどうかはわからないが、予算や人員のこともあり、募集をかけていないのではないかと思う。

委員：学校司書の配置がある学校で働く先生といない学校の先生とでは、教育における効率性や授業の内容に大きな差があると言われる。例えば、大阪の箕面市や池田市、羽曳野市では既に配置されている。

委員：私はもともと九会小学校で仕事をしていた。大学の時に児童書が好きで、該当授業を受けて司書教諭の資格を取得した。定年までの期間、司書教諭として資格を活かしたのは最終の九会小学校の時だけだった。司書教諭としての大きな仕事のひとつがコンクール応募の管理であった。その他、本の購入、選書などもあったが。今は九会小でボランティアをしていて、図書担当の先生と授業前によく話をし、単元に入る時の資料の準備をすることができると伝えている。

その一方、先生方が忙し過ぎて、学校図書館を利用できていない現状がある。図書館の資料について認識されていないので、国語の授業などに使用する参考資料を集めて、先生へ提供していこうかと考えている。そのため、市の図書館にも資料の協力をお願いすることが多くなると思う。図書館ボランティアも新しいシステムを利用できるので、九会小しかない図書がどれだけあるのか、活用できるのかもチェックしながら、参考資料を先生へ提供できればと考えている。

委員：すばらしい考えである。私が昨日書き上げた本の最後の部分に同様のことを書いている。提案したのは、学校図書館の資料で「この単元ではこの資料が役立つリスト」を作るということである。リストを作ることで、学校内の利用可能な本や状態を把握できると思う。学校にならぬ資料についても確認し、授業で使えるのかも調べておく。そうすると、学校司書は、そのリストをもとに、授業で使う参考資料をすぐに用意することができる。例えば、千葉県の市川市は、赤帽の配達で、そういうセットを学校に順番に送っている。各学校で「スクールパック」と言った形で活動を行っている。それにより、学校には調べ学習をするための資料が古く少ないということもわかる。

委員：九会小学校は、非常に多くの蔵書があり古い本も多いのだが、宮沢賢治については、1クラス分の読み手の数はあるくらいだ。しかし、詩の授業となると、新しい詩の作品について

は少ないかもしれない。資料の提供を考えると、例えば、星をテーマにした綺麗な写真などが掲載されている本があるので、これらを教材として活用することで子どもたちが星や宇宙に興味を持つことができる。そこから古代ギリシャ神話にでてくる星座などと関連づけることもできる。いろいろなことができるが、どの資料をどの授業に活用するかは担当の先生との繋がり、連携が非常に大事である。足りない資料は市の図書館に助けをもらいたい。授業に関連する資料を探し出すことは図書ボランティアも協力できる。

委員：私は以前から話をしているが、登録者数の市内登録率 29.6%は低いと感じている。兵庫県の平均が 34.9%であり、関西で一番すばらしい図書館がある滋賀県では登録率 63.8%である。レファレンスブックも貸出ししており、非常に優れた図書館を運営している。京都が 42.1%、三重が 40.5%の登録率だ。目標としては、まず 30%を超えて、それから 40%を超えるようにするにはどうすればいいのかを考えることだ。例えば、学校入学時に、全ての児童が市の図書館に登録してカードを持っているのか。

事務局：入学時に全ての児童について、カードを登録してもらうという事は行っていない。

委員：入学時に市の図書館のカードをその場で登録してもらう市もあるし、ブックスタート時という市もある。生まれた時に市の図書館のカードを持つというのも良いと思う。

事務局：図書館としては、具体的には、市役所市民課で出生届を受付する際に、市民課の職員から図書館カード作成のチラシを配布してもらっている。そのチラシを見て、カード登録を希望すれば図書館でカードを作成している。希望者に発行するため、必ずということではない。

教育長：図書館カードを登録してもらう方法を検討してはどうか。

事務局：引き続き、効果的な方法を検討していく。

委員：実績報告で報告されたリファレンスの件数の内容も今後提供してほしい。

また、先日、孫と一緒に図書館映画会に参加した。映画会には、おじいちゃんおばあちゃんがお孫さんと一緒に来られていて、子どもが騒いだら注意するなどされて良いことだと思った。孫の躰は親がするもので、祖父母の立場から口を出すことができない時代である。しかし、この映画会を通して、親が子どもを見ることができない時間を祖父母と孫と一緒に過ごすのは良いことだと思った。この映画会に参加するには図書館カードが必要である。もっと、子ども向けの映画会を増やすのもよいのではと思う。それも幼児向け、小学生向けなどの作品を選び、宣伝のチラシも工夫されたらと思う。映画をみるにはカードが必要なので、最初は、この映画会はカードをつくるためのものかと感じた。でも、それをうまく利用すればよいと思う。図書館に興味を持ってもらう機会にして、映画会の帰りに図書館によって本を借りてもらう。私の孫もせっかく来たから本も借りに図書館へ行っている。

それから、今年度、図書館キャラバンで公民館へ出張図書館をしているが、これも学校に取り入れたらどうかと思う。本を自由に選べるような出張図書館サービスを実現すればよいと思う。例えば、お昼休みに図書館から車が学校にやってきて、そこで本を借りるという形である。図書館システムを利用して、学校から図書館の本の予約をして、それを車で運んでもらったらさらに便利である。私の孫の例でいうと、孫は本を読み終えて早く返したいのに、親の都合で図書館に行けず、いつまでも読みきった本を持っていなければならないことがある。このような場合でも、出張図書館があれば、学校からの返却も可能であるし、次に読みたい本をすぐに

借りることができる。

委員：システム統一をしたから、OPAC（オンラインパブリックアクセスカタログ）を活用して、学校からもできるはずではないか。

事務局：児童生徒は所属する学校図書館の本は自分の Chromebook で検索ができるので、どんな本があるか調べて、その本を借りに行くことができる。令和5年3月からスタートしている市の電子図書館は、Chromebook から検索もできるし、貸出もできる。ただ、加西市立図書館にある紙の本は、Chromebook から検索はできるが、加西市立図書館のカードを作らないと貸出等利用することはできない。

委員：それを解消するために、市の図書館から学校へ出向いて行くのはどうか。Chromebook を使って市の図書館の本を探せるが、実際にできる子どもはきっと少ない。でも、学校司書が図書室にいて、子どもに教えたらかきっと出来ると思う。また、居場所という意味で、休み時間に外に行かずに、図書館に来る子が多いと感じる。九会小はどうですか。

委員：その理由で図書館に行く子どももいると思うが、最近では、強烈な暑さのため、学校では、外で遊ばないという禁止令が出ていて、図書館や教室で静かに過ごしましょうという放送が流れている。

委員：暑さが理由で、図書室に行く子ども多いのかもしれないが、せっかくできた新しいシステムを活用して、様々な利用の仕方を見ると、子どもたちが、もっと公共の図書館を使うことにつながると思う。

委員：図書館の出前講座を利用したことがある。例えば小学校3年生であれば、昆虫というテーマで1時間の読み聞かせの後、昆虫関連の本をその場に並べて、子どもたちが好きなように借りるということをしてもらった。あの講座も楽しいものであった。この頃、出前講座の申込はないのか。

事務局：出前講座については、学校の依頼によって内容を決めている。依頼時に本の貸出も希望する場合は対応している。笹倉先生にお世話になっている中学校1年生を対象にしたビブリオトークでは、図書館から本を運んで、最後に貸出もしている。出前講座の中で、貸出希望の依頼があれば対応する。あと、副読本ではないが、学校の授業に関連する本を用意して欲しいという相談にも対応していて、本を学校へ運んでいる。

委員：市の図書館の団体貸出を利用して100冊ほど借りることがあるが、あくまでも教師が本を選んでる。教師が選んだ本を子どもたちに選んでもらうこともあるが、さきほど委員が言われた意見の内容とは違う。

委員：そうなればいいのと思う。

事務局：実はかなり前に、学校の昼休みなどに図書館の本を運んで貸出をする計画もあったのだが、学校に相談したところ、お断りされてしまったという経緯がある。そのため、現在は止まっている。

委員：元教師としての経験から言うと、実は問題になっていたのは、子どもたちが本を汚したり破ったりすることである。本の本体自体を壊すこともある。今、私は三木市で本の修理も担当していて、子どもたちが本を落としたり、色を付けてしまったり、本を変形させているのを見ている。もし学校が図書館から本を借りると、こういう結果になるとも限らない。その場合

にどう対応すればいいのかと、絶えず先生たちは心配している。だから、そうなってもいいよというぐらいの大きな理解で貸出をしてもらえればと思う。

委員：図書館を利用するという事は公共性を学ぶ、初めて社会のルールを学ぶことでもあるから、その本をどう扱うか考えるのも教育だと思う。

委員：子どもたちは1人1枚ずつ学校のカードを持っているが、市の図書館のカードも持っていれば、自分で歩いて行ける子どもたちは市の図書館へ行くことだろう。宇仁や日吉、九会の一部では、多くの方が他市の図書館を利用しているため、数値には出ないところで、加西の子どもたちは本を読んでいると思う。特に滝野図書館では距離が近いということもあり、宇仁の利用者が多いと思われる。それも含めて、本を好きになるためには、どちらの図書館も利用してほしいと思う。

委員：新しい意見ではないが、学校と公立図書館のシステムが一緒になったこの機に、出生時とは言わないが、小学校入学時に図書館カードを作ってもらうことを進めるのもよいと思う。そして、全ての子どもが図書館カードを持つようになって、学校で予約するなどの形が可能になれば良いことだ。子どもたちはカードを持つと、とても使いたがるものである。

委員：子どもたちが扱うと粗雑になることもあると思う。

委員：子どもたちが扱うことでカードが多少痛むのは仕方のないことだと思う。

委員：私はこども園に勤務している。コロナ前にお話キャラバンを利用して、図書館のかたに4、5歳と、それ以下の年齢の子どもたちを対象にして、お話にちなんだペープサートなどをしてもらった。それが子どもたちの心に残っている。園によっては、未就園の親子を対象に、親子で一緒に参加できる講座を開催していたときもあった。図書館にそういう講座を希望すればしてもらえるのか。

事務局：園から未就園の子を対象に親子で一緒に参加できる講座をしてほしいと依頼があれば、希望に沿った内容でさせてもらう。

委員：とても楽しいおはなし会だったので今後依頼する。それから、園のおはなし会では、ここにおられる2人の委員に読み聞かせをしてもらっていて、ずっとお世話になっている。担任とは違う声の感じが子どもたちは大好きで、本当に夢中になっていた。この会議に参加したことをきっかけに、保護者の方が今どのように、家庭で子どもに読み聞かせをしているのか調べていきたいと思っている。また、読書の秋にちなんで、本の読み聞かせを行うこともしてみたいと思う。

それとは別で、季節ごとに図書館から本が配達されるので、子どもたちに読み聞かせをしたり、年長の子に貸出もしたりしているが、実際に、親子で触れ合う機会を提供する活動をもっともっと増やしていくことが重要であると感じている。絵本や児童書は本当に面白く、味わい深い本がたくさんあるので、それをもっと保護者に啓発していけるよう進めたいと改めて感じた。

委員：保護者への啓発は難しいと思う。

委員：もう随分と前の話になるが、当時の九会幼稚園に読み聞かせに行くと、いつも2、3人のお母さん方が聞きにこられていた。その方々が今、九会小学校の図書ボランティアをされている。そういうことがあり、私たちがボランティアで読み聞かせに行く日を、園だよりなど

を通して保護者に周知し、子どもたちと一緒に聞いてくださいと呼びかけるという方法もある。現在、仕事をされている方が多いので、実際にはどれぐらいの方がこられるのかわからないが、きっと関心を持っている方がいると思う。そのような経緯で、ボランティアさんが育てられた事例もあり、そういう活動を通して、子どもと一緒に聞いてみたいという保護者が増えることを願っている。私たちも後継者を求めている。

委員：参考にさせていただく。検討をして進めていきたい。

委員：私は、保育所とこども園にも関わっている。そこで保護者やこども園の先生に対して、読み聞かせは少なくとも小学校4年生までは続けるべきだという考えを伝えている。これは、松岡享子さんも言われていることだ。

私自身も下の子が4年生になるまで読み続けた。その結果、無理に勉強させる必要もなく、自分で考える力や個性的な考え方ができるようになったと思う。この経験を元に、読み聞かせは親子が共に過ごす大事な時間であり、一番大事な時に子どもとの会話ができることはいいと思う。

委員：図書館の来館者数が少ないことを改めて今日知った。私は県外から加西市に来ており、県外の図書館と比べると、加西市の図書館がとても綺麗で充実していると思う。そのときからずっと図書館を利用している。子どもと一緒にカードを作っているが、更新するのを忘れてたりして、あまり大切に扱うことができていない。先ほどの話にあったように、赤ちゃんの時からお祝いのようにカードをプレゼントすることができるのなら、カードを大切にしておき、図書館も利用したくなるかもしれないと思う。

質問をするが、図書館ではLINEの利用や、公民館に返却できるサービスをされている。それによって、利用者数が増えているのか。私は図書館の3階に来て本を返すことが辛い。

事務局：一定数の利用はある。多数ではないが、本の返却や取り寄せをされる方がいる。このサービスは週1回、毎週水曜日に公民館を巡回し、返却する本を回収して予約された本を配布している。

委員：正直に言うと公民館へも行きにくい。もっと行きやすい場所だったらと思いながら、図書館まで来ている。しかし、このアステアかさい2階のアスもには子どもたちが集まっている。市外からも北条鉄道を利用して来られる親子を見たことがある。この方々が、3階の図書館の存在を知っているのか疑問に思う。図書館の存在を周知したら、アスもの空き時間に図書館に立ち寄り方が増えるのではないかと思う。

事務局：アスもの入場時間が決まっているので、順番待ちの間に図書館に来られる方がいる。その時に図書館で読み聞かせをしていて、参加を促しても、アスもの時間が決まっているから参加できないと断られることもある。待ち時間を利用して図書館に足を運んでもらえていると思うので、そこから利用につながればと思う。

委員：日本の図書館の数は先進国の中では少なく、4万8,000人に1つの割合である。一方、フィンランドは6,000人に1つ、イギリスでは子どもが歩いていけるところにある。

多可町では公民館を図書館の分館にして、人も配置している。将来的に新しい図書館を建てなくても、分館構想で間に合うところは公民館を活用する考え方もある。分館が自転車や歩いて行ける場所にあることで、子どもが本好きになるきっかけになる。ぜひ、考えていただきたい。

委員：毎年実施される特別整理期間は、図書館が閉館するので不便である。私は加東市在住のため滝野図書館や西脇市の Miraie（みらいえ）を利用している。加東市では複数の図書館があり、どこかが閉館していても他の図書館が開いているので便利である。先程、話にでた分館が加西市にできれば便利になると思う。

ホームページは非常に見やすく、文字も大きいし、入り方もわかりやすいため利用しやすいと感じた。資料の探し方や予約などわかりやすい説明で親切である。

図書館利用の目的は、本を読み、情報を得るといえることが多いと思うが、中には図書館が好きで安心を感じるから来ている人がいると思う。私は中学校に勤めていた関係で、社会と触れ合うのが苦手で、ひきこもり、学校へ行きにくいと感じる子どもたちも、図書館だとそこに自分の好きなものがあるとか、雰囲気が好きだとか、カウンターのスタッフの対応が良くて何か馴染んでいいという思いで行くことができるのではないかと考えている。それは大人でも同じだと思う。年配の方や様々な人の居場所になる図書館という視点も持ちながら、運営してほしい。どうしても貸出冊数や利用者人数の指標が重視されるが、少数派の人の利用やニーズも理解し、適切な対応を行っていただけたらありがたい。

委員：私が仕事をしていた経験から言うと、仲間と一緒にいられない子どもたちの行き先は、保健室か図書室である。特に図書室の雰囲気作りが大事だと感じている。明るく楽しい穏やかな雰囲気を作るために、色などを考えながら、軟らかい飾りで装飾している。そういう中で、「図書室が一番好きやねん」「ここに来ると落ち着く」と子どもたちの声が聞こえてくると、図書室作りが役に立ったとうれしく思う。だから、その子が少しずつ友達の輪の中に戻っていく様子を見ると本当にうれしい。やはり、子どもたちが普段から安心して利用できる図書室、市の図書館が存在することはとても大事なことである。

委員：先ほど発言された委員が校長を務めていた中学校の学校図書館には、昼休みにも多くの生徒が集まるということを知っている。多くの学校では昼休みに図書館を訪ねる生徒は少ない。例えば、石川県では昼休みに 300 人の生徒が図書室に集まる学校もあるが、それは稀であり、通常は 4、5 人程度で、多可町もそのような状況である。何か工夫をされていたのか。

委員：私が勤務していた泉中学校には 4 つの小学校区があり、どの小学校も図書の教育にかなり力を入れていたことが影響している。以前に勤務した西在田小学校では、玄関すぐのフロアに本が並べられ、POP で紹介されるなど本を手に取りやすい環境が整えられ、休み時間にも読むことができるような状況だった。このような環境で育った子どもたちは必然的に活字に親しむことができた。新聞を読む NIE の取組も行っていて、読書が身近なものになっていたため、意図的ではなく自然に活字に親しむことができた。

委員：急にできることではない。取組の積み上げが必要である。

委員：小学校からの取組の積み上げが大事である。もちろん、幼いころからの積み上げも必要である。

委員：私は、図書館が歩いて行ける場所にあり、子どもが小さいときからも利用してきて、非常に使いやすいと感じている。最近レイアウトを変更して、今年は照明を LED に変えるなど、非常に明るく利用しやすい。

また、私の高齢になる父親は、実家に帰ると図書館の本を借りていて、本の返却を頼まれる。

図書館キャラバンが、善防、南部、北部公民館で開催とのことだが、もし可能であれば、例えば移動販売車のような形で、家の近くの公民館のような場所に行くのもいいのではないかと思う。そこだったら運転免許を返納した方も歩いて行って、本を借りたり返したりすることができる。高齢者も図書館を利用しているので、図書館キャラバンをこのような形で進めるのもいいのではと思う。

委員：明石市はそのサービスをしている。

委員：私は約3年間北条東と北条小学校の初任者教諭の指導をしていた。そこで随分と自分が現役で働いた頃と違うことに驚いた。若い教諭たちは電子黒板に頼り、何かを調べるときにはYouTubeを利用して説明をすることが多い。早く情報は伝わるが、やはり自分で図書館の本を探すという力が必要だ。その時に図書館に司書の方がおられたらと思う。私は国語の研究をしていて、所属していた京都の全国国語教育研究会では毎年全国大会を開催していた。その頃は自分で資料を探していた。例えば、宮沢賢治の「やまなし」を学習するなら、宮沢賢治の他の作品、イーハトーブなども探し、工藤直子さんの様々な詩を自分でそろえていた。そういうことを司書の方が学習に応じた資料や本を提案して、また、そこから子どもたちが選んで読むというようになれば、もっと子どもたちの力がつくのではないかと思う。

そして、私が最初に図書館で驚いたことは、読書手帳というものがあって、手帳にシールを貼ることだ。ここへ来て8年間で11冊目になる。年間に150冊を読んでいることになる。京都では子どもたちに年間100冊の読書を目指して、達成した場合は賞状のようなものを渡していた。加西市もそういうことをしているのか。

事務局：目標を決めて、賞状等を渡すということまではしていない。

委員：何かすると子どもたちの励みになると思う。別にシールを貼るのではなく、自分が面白いと感じたことをメモをする欄があっても良いと思う。

先日、「映画ざんねんないきもの事典」という映画の上映会があり、私は今まで全ての映画会に参加している。その際、後ろの席の子どもが皇帝ペンギンの話が面白かったとつぶやいているの聞き、自分が何かを見ることで新しい知識を得ることはとても嬉しいことだと思った。その子は静かに映画を見て話すこともなかった。たくさん子どもたちが来ていたので、もっと、子ども向けの映画を上映したら、喜んで参加する子どもたちが増えると思う。

今のお母さん方は、子どもに本を読みなさいと言っても、忙しいので読み聞かせをする時間がない。私自身は子どもの頃に本好きではなかったので、本好きな子どもを育てようと、読み聞かせを積極的にしていた。上の子は本当に本が大好きで何度も読んでほしいとせがむほどだったが、下の子は私が読んでいても、いつの間にか居なくなる。この経験から、環境だけでなく何か子ども自身持っているものにもよるのではと考えた。そこで、その子に合う本を提供したら興味を示して読むので、適切な本を与えることも大事であることがわかった。

私が勤めていたときに、1年生のクラスを持ち、親子読書ノートという親子で感想を書き合う取組をしていた。1冊の本を子どもと親とで読むことは感想が別々であっても価値がある。例えば、「サッチャンのまほうのて」という障害のある子の絵本を読んでいる親子がいた。それを読んでいる子が遠視で眼鏡をかけるようになり、その子の親が子どもに寄り添ってコンタクトから眼鏡に変えたのだ。本を通して、子どもに寄り添う、一緒に分かち合うようになる。

そのような経験もあり、小学校の時代、幼稚園の時代に読ませたい、聞かせたい本は必ずあるので読んで欲しい。今の子は語彙力がないというか、何か面白かったとしてどう面白いのか具体的に言う力があまりない。心の中で思っているのを言葉に出せない。しかし、本をたくさん読んでいる子は、語彙力も増えてくるし、感情的に豊かになってくる。学校教育の中でも豊かな心を一番大事に育てたいと思う。

本当に加西市はいろいろな取組をされていて、学ぶことが多い。これからもいろんな行事に参加したい。

委員：先ほどの話にあったが、現代は様々な情報が流れ、学校の先生がYouTubeを使って授業をする時代になった。今、大学で一番の問題となっているのは、AIのチャットGPTである。おそらく来年には小学校、中学校でも問題になると思う。図書館でもこのチャットGPTが2、3年後は問題になるのだと思う。

要するに、本物かどうか見分ける目を持つことが必要である。インターネットの情報の9割は無意味な情報で、1割だけが本当に信頼できる情報である。その1割の信頼できる情報は、最後は信頼がある機関から発信された情報であり、政府や兵庫県、大学、研究機関が出している情報になる。個人が出している情報はたくさんあり、フェイクニュースの可能性もあるため、どう見破るか注意すべきである。世の中にはフェイクニュースがたくさんあって、教育にも関わってくる。この問題は図書館に影響を及ぼすから、どう対処していくか難しいところだ。

あと、スマート図書館サービスを開始していることもあり、スマートフォンで本の検索もできるので、それを活用した高齢者サービスに特化した講座ができないものかと思う。今、私が大学の公開講座で行っている60歳以上向けの読み聞かせコーナーは非常に人気があり、定員オーバーするほどである。もう5年ぐらい前から福知山市や神戸市など各地で行っている。60歳以上の参加者は非常に元気で、そういう方に公共図書館で研修や訓練をして、力をつけてもらって、学校や老人施設などに入って活躍してもらいたい。高齢者は十分に活動するパワーと技術を身につけることができると思う。

私は大学で「図書館情報学」「情報サービス論」「情報サービス演習」などを担当している。情報検索をすると、例えば「ここからここまで行くのに一番安く早く行く方法は何か」とか、「薬の副作用はどうなっているのか」などの世界の情報を得ることができる。世界の情報検索デスクの一覧表を紹介するなど、そういう講座も高齢者が受けると目からウロコで驚きと新たな発見があると思う。高齢者が増えている今、県立図書館では開館時間の9時半までに行列ができるほどだ。私もここで勤めていたが、こうした状況もあり、もし高齢者サービスとして情報検索の講座をするなら、私がボランティアで講座を担当することができる。こういう講座も開催すると、図書館を利用する方がまた増えるのではないかと思う。

## 6 連絡事項

次回の開催は令和6年3月中旬から下旬頃を予定

## 7 閉会（16：30）